特別支援学級における社会的・職業的自立を目指した生活力を育成するカリキュラムの研究開発

ーキャリアマネジメントにおける「食品加工」の実践研究ー

藤井朋子　・　若松昭彦*

要約：本校特別支援学級では，知的障害のある生徒の社会的・職業的自立を目指した生活力を育成するため，従来の作業学習等を見直し，教科「キャリアマネジメント」を立ち上げ教育実践を行っている。本研究では「食品加工」の実践を取り上げ，生徒の言動や記述を分析し，評価の観点と基礎的・汎用的能力をもとに作成した評価規準に基づいて評価することによって生徒の変容を見取り，授業実践や指導の効果および課題を明らかにすることを目的とした。その結果，生徒の言動や記述から自己肯定感の高まりが見られた。また，他の単元との関連や生徒の発達段階等を考慮して，指導の重点の明確化を図っていくことが今後の課題として挙げられた。

キーワード：中学校特別支援学級，キャリア教育，基礎的・汎用的能力，食品加工

Ⅰ．はじめに

特別支援教育においては全教育活動を通じてキャリア教育の視点を踏まえた実践の充実が求められている。特に中等教育段階では，職業教育，進路指導の充実を図ることが求められている。そのような中，後期中等教育段階では，特別支援学校等における作業学習や進路学習の指導の充実・改善が図られ，卒業後の就労率も上昇しつつある。しかし，一方で就労が持続せず離職するケースも多い現状がある。離職の原因は作業能力ではなく，その多くは職場での人間関係とされる。そのための対策には，働くということの基礎的な部分となる動機づけからの指導が必要となる。しかし，後期中等教育３年間においては，職場見学や職場実習等，具体的に就労に直結する指導が中心になり，そのような指導に時間的な余裕のない現状がある。本学級生徒の多くは特別支援学校に進学し，卒業後は就労を希望している。中学校卒業後の進路を見据え，将来の就労をより充実したものにするために，中学校段階で自己肯定感や自尊感情を育む取り組みを進め，働くとはどういうことかといった勤労観・職業観の土台を築いていくことは重要であると考える。

Ⅱ．研究の目的と方法

1　目的

本校特別支援学級では，昨年度より従来の作業学習を見直し，指導内容を拡充した新教科「キャリアマネジメント」を開設し，授業実践を開始した。本研究では「キャリアマネジメント」の学習内容の一つである「食品加工」の授業実践を取り上げ，その指導の効果や課題を明らかにするとともに，カリキュラムの開発・検討のための基礎的知見を得ることを目的とする。

2　教科「キャリアマネジメント」の構成と「食品加工」について

キャリアマネジメントは知的障害特別支援学校中学部の教科である「職業・家庭」の内容にライフキャリアの視点から新たな内容を付加した教科である。生涯にわたって社会参加に意欲を持てるようにするとともに，適切な自己の把握を通して，社会生活および職業生活・家庭生活に必要な基礎的な知識・技能と態度の習得を図り，実践的な態度を育てることを目標としている。具体的には「社会生活に必要なスキル」，「就労への意欲」，「自己有用感・自己効力感等の内発的な意欲」，「自己の理解と把握による評価力」，「課題遂行力」といった資質や能力の育成を目指している。

学習内容については，「職業に関する内容」「社会生活に関する内容」「家庭に関する内容」の３つの分野から構成されている。「職業に関する内容」のうち，作業活動を行いながら働くことについて学習する単元に「私たちの東雲コーポレーション」がある。その学習の時間は，生徒は「東雲コーポレーション」という会社組織の一員であるという位置づけのもと活動する。活動内容は，本校の施設・設備や生徒の興味関心を踏まえ，「食品加工」「クラフト」「情報・サービス」の３つを設定しており，それぞれ販売を目指して製品

* 広島大学大学院教育学研究科

作りを行う。この３つの活動を生徒は学年縦割りのグループに分かれて行う。グループは学期（３学期制）ごとにローテーションし，生徒は１年間で３つの活動を体験することになる。

１回の授業は，隔週で１時間目から４時間目までの連続授業を基本として行った。1 時間目の始まりは全体で集まり，本日の目標や活動内容を確認し，４時間目の終わりは再度全体で集まり，本日の目標の達成状況や成果，課題を共有するようにした。

３．研究方法

（１）対象生徒と研究期間

本校特別支援学級（知的障害学級）は各学年６名，合計 18 名の生徒が在籍している。本研究では平成 26 年度２学期（９月～12 月）に「食品加工」を学習した生徒６名（１学年男子１名，女子１名，２学年男子２名，３学年男子１名，女子１名）を研究対象とし，その授業実践期間を研究期間とする。

また，対象生徒は重度から軽度の知的障害を有しており，自閉的傾向やダウン症を併せもつ生徒もいる。言葉でのコミュニケーションや指示理解ができる生徒から，言葉の意味理解が難しい生徒，発語が困難な生徒がおり，学習面，生活面ともに実態は幅広い。

（２）研究方法

毎回の授業では振り返りの時間を設け，評価表に自己評価や他者評価，集団としての評価を記入させ，それをグループ内外で共有させている。活動中の生徒の言動を観察・記録することや，評価表の記述を分析・考察すること，さらには生徒へのアンケートを実施し分析することによって，授業実践や指導の効果，課題を明らかにする。

Ⅲ．授業実践

１　指導目標

単元「私たちの東雲コーポレーション」の指導目標として次の３つを設定した。

（1）相手を意識して製品を考え，意見を発表したり，実際に作ったり，比較したりすることを通して合意形成することができる。

（２）活動の目的に沿って，指示や手順を理解し，最後まで作業に集中して取り組むことができる。

（３）相手を意識した行動やコミュニケーションをとることができる。

なお，上級生はリーダーとしての意識を持たせるように，下級生はフォロワーとして集団を支えるという意識を持たせるように，学年進行を意識した指導を行った。

２　単元構成

単元名「私たちの東雲コーポレーション」

（１）今学期の計画立案……４時間×１回
（２）商品開発……４時間×３回
（３）販売準備と接客練習……４時間×１回
（４）商品作り（１回目）……４時間×１回
（５）第１回東雲ショップ……１時間
（６）販売の振り返りと販売準備……４時間×１回
（７）商品作り（２回目）……４時間×１回
（８）第２回東雲ショップ……１時間
（９）今学期の振り返り……１時間

（全 35 時間）

３　授業づくりの視点

授業を行うに当たって，次の視点を盛り込んだ。

（１）将来の生活をイメージし，働くということや働くことの意義を，体験を通して学ぶ。
（２）自分のためではなく，他者を意識して食品加工を行う。
（３）販売を目指した商品開発を行う。
（４）生徒の活動にＰＤＣＡサイクルを取り入れる。
（５）学年縦割りの異年齢集団であることを活かす。
（６）生徒一人ひとりが役割を担い協働するなかで，自己肯定感を高める。
（７）適切な評価ができるよう，生徒による自己評価と他者評価，集団としての評価を繰り返し行う。

４　学習評価

指導目標を踏まえ，評価の４観点「関心・意欲・態度」「思考・表現・判断」「技能」「知識・理解」と，キャリア教育における基礎的・汎用的能力「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の４つの能力を組み合わせて，次の表１のような観点別の評価規準を設定した。

表１　「食品加工」における観点別の評価規準

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
人間関係形成・社会形成能力	他者と協力して取り組むことに意欲を持っている。	自分の思いを相手に伝えたり，他者の思いを受け止めたりしている。	相手に伝えることを意識して，丁寧な言葉で伝えることができる。	コミュニケーションの必要な場面や方法を理解している。
自己理解・自己管理能力	自分の役割に沿って，主体的に行動しようとしている。	自分がやるべきことを判断できている。	自分のやるべきことに集中し，自制して取り組むことができる。	自分の役割を理解し，自制しながら課題に取り組むことがわかる。
課題対応能力	苦手な活動にも意欲を持って取り組もうとしている	自他の言動が適正であったかを正しく評価している。	作業に応じた用具を適切に扱ったり，工夫したりすることができる。	アンケート結果等から，どのように改善したらよいかがわかる。
キャリアプランニング能力	計画を立て，実行していくことに意欲を持っている。	どのようにしたらうまくいくかを考えることができる。	目標に応じて計画を立てることができる。	課題の意味や自他の役割を理解している。

5　授業の実際

単元構成に基づいて授業の概略を述べる。

（1）今学期の計画立案

まず，グループ内でリーダーとサブリーダーを選出した。どのグループも３年生もしくは２年生から選出することにしている。今回，食品加工グループは，３年生２名ともこれまでにリーダーを経験していることもあり，２年生２名がリーダー，サブリーダーに立候補し選出された。

次に，リーダー主導のもと，今学期の目標を決めたり，活動計画を立てたり，どのような商品を開発するかを話し合ったりした。目標は「安全に気をつける」「協力し合って良い商品を創る」の２つに決まった。その後，どんな商品が販売にふさわしいかを検討した。２回ある東雲ショップ（販売）はどちらも販売対象のほとんどが大人で，昼食をとった後に販売することになる。製菓や調理関係の書籍を見て意見を出し合った結果，食後のデザートとして提供すれば喜んでもらえるだろうと予想し，抹茶カップケーキを商品開発していくことに決まった。そして，２回の販売の時期が決まっており，それに基づいて活動計画は立てていった。

また，食品加工では，衛生的に食材や器具を扱うことが大前提であるので，衛生面の意識を高める学習を行った。手洗いの方法や作業着等の着用や洗濯については実際にやってみて体験を通して学習した。

（2）商品開発

リーダーは活動日の前日までに担当教員と活動内容等について打ち合わせをすることになっている。そして，活動日はまず３グループ全員で集まってミーティングを行い，各グループのリーダーが本日の目標の確認，及び活動内容の全員への伝達を行う。その後グループに分かれて，再度本時の目標や細かい活動内容を確認する。また，食品加工グループは昼休憩に出すお茶の準備や作業着の洗濯といった活動も行うので，担当の確認も行う。ローテーションで２名の担当を決め，担当者は責任を持って最後までやるようお互い声かけし協力しながら行う。

商品については試作品を作り，グループのメンバーや，他のグループの生徒，教職員に試食してもらいアンケートを取る。それを集計したもの（図１）をもとに商品開発会議を行い，改良を重ねていく。例えば，黒豆やチョコチップをトッピングしてみてはどうかとのアイデアをもとに試作し検討したり，砂糖の量を加減したり，はちみつや練乳を加える工夫をしたりした。１個のケーキの重量やケース等についても検討を行い，話し合って決めていった。

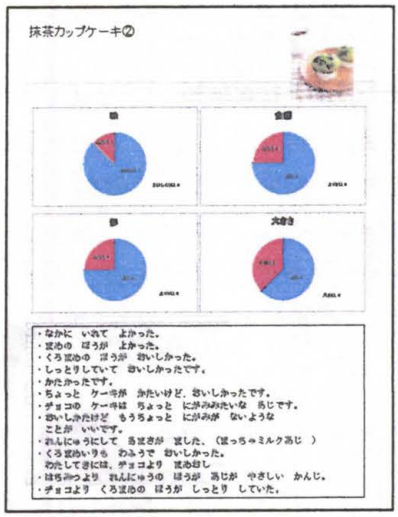

図１　アンケートの集計結果

作業工程については役割を固定せず，いろいろな工程を経験できるようにした。各自が自分の担当する工程について責任を持ってこなすことで仕上がるようにした。

授業の最後の振り返りの時間は，まず，各自が評価表(図２)にもとづいて本日の自分の活動を振り返り，次に，グループの仲間の良かったところや，直してほしいところ等を出し合い，集団として協力して作業が

できたか，グループ目標や個人目標はどうだったかを評価した。この評価をもとに，次回の目標を話し合って決めた。

以上の一連の活動を，リーダーとサブリーダーが主導して進めていった。

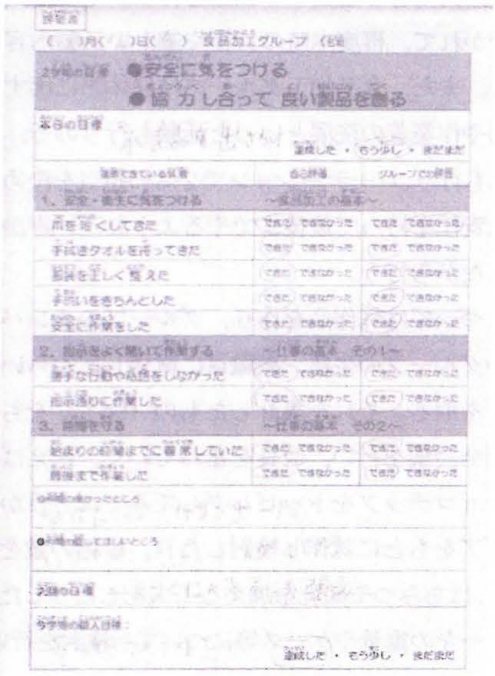

図２　評価表

（３）販売準備と接客練習

商品（図３）は「東雲オリジナル抹茶黒豆ケーキ」という名称で，時間や施設・設備を考慮して 120 個作り，１個 100 円で販売することに決めた。また，「東雲ショップ」の看板を作り，販売に向けて気持を高めていった。

図３　開発した商品
「東雲オリジナル抹茶黒豆ケーキ」

接客練習については，９月にキャリアマネジメントの授業で工場見学に行き，実際に製品が作られている様子や働いている人の様子，販売，接客等について見学している。そこで，そのことを思い出し，何が大切か，適切なコミュニケーションはどのようなものかを確認しながら行った。また，ロールプレイで想定される質問に答える練習等も行った。

（４）商品作り（１回目）

「不良品を出さない」という目標のもと，注意をしながら丁寧に作業を行った。それでも，オーブンに入れる際，となりのケースと押し合って形が悪くなってしまったものや，オーブンから出す際，ミトンが当たってつぶれてしまったもの等商品として出せないものがいくつか出て，商品として出せるものは 111 個になった。商品開発の段階ではなかった失敗が今回あり，次回の商品作りに向けてよい教訓を得ることができた。

（５）第１回東雲ショップ

本校の教育研究会（11 月 22 日）の昼休憩に行った。販売対象は研究会に参加した他校の教職員である。３グループの生徒が均等に２名ずつおり，商品説明に対応できることから，学年ごとに販売時間を区切って行った。チラシの配布，商品の説明，会計の担当に分かれ，一人ひとりの生徒が役割を持つようにした。初対面の人を前に緊張して，「いらっしゃいませ」や「ありがとうございました」の言葉が言えなかったり，声が小さかったりしたが，徐々に声が出せるようになっていった。完売することができ，アンケートにも多くの方に協力して頂いた。

（６）販売の振り返りと販売準備

第１回東雲ショップの時に回収したアンケートの集計結果をもとに振り返りを行った。完売したことや，アンケートに「おいしかった」のコメントが多かったことが，生徒にとって大きな励みと自信になり，次回の販売への意欲につながった。

次回も同数の商品を作ることを確認し，次回の商品作りに向けて粉の計量等準備を行った。

（７）商品作り（２回目）

１回目の商品作りでの反省をもとに，今回も「不良品を出さない」という目標を立て，気をつけることを確認して商品作りを行った。今回の作業は食材やオーブンの温度管理に苦戦し，時間がかかってしまったり，トッピングの黒豆がオーブンで焼く過程で生地に埋まってしまうものが出たりした。これまでに経験しなかった困難に出遭ったが，全員が最後まで協力して全ての工程をこなし，前回よりも少ないが，106 個の商品を作った。

（8）第２回東雲ショップ

東雲交流発表会（12 月 15 日）の昼休憩に行った。東雲小・中学校の特別支援学級児童生徒と青年学級生（卒業生），保護者，教職員が集まる会で，毎年 200 名以上の参加がある。販売対象は保護者と青年学級生である。第１回東雲ショップの時と同様に，学年ごとに販売を担当した。今回は，自分たちが作った商品を保護者や昨年まで一緒に活動してきた卒業生に買ってもらうことを楽しみにしている生徒も多く，第１回東雲ショップの時よりもリラックスして販売していた。今回は売れ残りが出るのではないかと生徒は心配していたが完売となり，生徒たちは大変喜んだ。

（9）今学期の振り返り

２学期の活動を，アンケートに記入したり感想や意見を出し合ったりすることで振り返った。毎回の活動で評価を繰り返すことによって，より的確な評価ができるようになった生徒が増えた。

Ⅳ．結果

1　生徒の記述や言動から

生徒の記述や言動をもとに，様子や変容をまとめた。

◆生徒Ａ（１年生男子）

試作品アンケートに自分の意見を細かく記入し，商品の改良に意欲的に取り組んだ。回数を重ねるごとに，商品に対してより厳しく評価できるようになっていった。また，学校生活全般において自信のない言動が多く見られるが，他の生徒からきちんと手順通りに行う手洗いや食材の正確な計量を賞賛されることで，自信を持って活動したり発言したりできるようになっていった。

◆生徒Ｂ（１年生女子）

知的障害と自閉症を併せ持つ。事前準備や物の管理が難しく，家庭との連携が欠かせなかった。

初めの頃は作業が終わっていなくても集団を離れ，椅子に座って休憩することがあったが，周囲からの声かけや本人が見通しを持つことで，集団活動への参加意欲が高まっていった。協働したい気持を，協働したい人や指示を出してくれそうな人のそばに行くといった行動で示し，協働できたときは笑顔が多く見られた。また，指示の理解ができないときときは「何？」と聞き返すことができた。

◆生徒Ｃ（２年生男子・サブリーダー）

サブリーダーとして，リーダーを支えていこうと主体的に行動することができた。また，先輩として生徒Ｂを常に気遣いサポートを行った。

細かい作業が苦手で調理の過程で上手くいかないこともあったが，器具の洗浄や後片付けを積極的に引き受ける本生徒の姿は，周囲の生徒の最後まで協力してやるという意識を高めることにつながった。

◆生徒Ｄ（２年生男子・リーダー）

物事を忘れやすく，リーダーとして模範的な態度を示すまでには至らなかったが，持ち前の明るさと前向きな姿勢で，話し合いや全体ミーティングではリーダーシップを発揮することができた。

◆生徒Ｅ（３年生男子）

知的障害と自閉症を併せ持つ。商品開発の意見を出す等，プランニングや思考・判断するのは難しいが，自分の役割は責任を持って最後までやりとげ，仕事に臨む態度としての模範を後輩たちに示した。

◆生徒Ｆ（３年生女子）

知的障害とダウン症を併せ持つ。強度肥満もあり，他の授業では姿勢保持も困難な様子や苦手意識から参加を渋る様子が見られるが，本授業への意欲は高く，予定を家族に伝えて事前準備を忘れることなくきちんと行った。お菓子作りを家庭でも行っており，器具を扱う手つきは他の生徒が賞賛するほどであった。立ったままでの長時間の作業も最後までやり通した。授業後の自己評価も高く，自己肯定感の高まりが見られた。

2　生徒の自己評価から

単元終了時に生徒へのアンケートを実施した。食品加工の授業を通して自分がどのように変化したと思うかを，４件法で回答したものを次の表２にまとめた。「とてもそう思う」という回答が多く，自分は「できた」「がんばった」という気持が強く，自己肯定感の高まりが見られた。

なお，アンケートに回答することが難しい生徒Ｂについては教員と相談しながら記入した。生徒Ｂが自ら行動しようとするような支援の工夫が課題である。

表２　生徒による自己評価

基礎的・汎用的能力に関する質問 1～3 人間関係形成・社会形成能力 4～6 自己理解・自己管理能力 7，8 課題対応能力 9，10 キャリアプランニング能力		A 一年男子	B 一年女子	C 二年男子サブリーダー	D 二年男子リーダー	E 三年男子	F 三年女子
1	あいさつや返事，丁寧な言葉遣いができたか	◎	○	◎	◎	◎	◎
2	仲間の良いところに目を向けることができたか	◎	○	◎	◎	◎	◎
3	メンバーと協力して作業することができたか	◎	◎	◎	◎	◎	◎
4	自分から行動するようになったか	◎	△	◎	◎	◎	◎
5	立ったまま時間いっぱい仕事を続けることができたか	◎	◎	◎	◎	◎	◎
6	自分の良いところに気づくことができたか	◎	○	◎	◎	◎	◎
7	前日までの準備や時間を見ての行動ができたか	○	△	◎	◎	◎	◎
8	難しいことがあってもあきらめずに挑戦したか	◎	◎	◎	◎	◎	◎
9	将来の職業生活に役に立つと思うか	○	◎	◎	◎	◎	◎
10	学ぶ力や考える力がついたと思うか	○	○	◎	◎	◎	◎

◎とてもそう思う　○まあまあそう思う
△あまりそう思わない　×まったくそう思わない

表３　教員による本単元における生徒の評価

基礎的・汎用的能力	評価の４観点	A 一年男子	B 一年女子	C 二年男子サブリーダー	D 二年男子リーダー	E 三年男子	F 三年女子
人間関係形成・社会形成能力	関心・意欲・態度	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	思考・判断・表現	○	△	○	○	○	○
	技能	○	△	○	○	◎	○
	知識・理解	○	△	○	○	○	○
自己理解・自己管理能力	関心・意欲・態度	○	△	◎	◎	○	◎
	思考・判断・表現	◎	△	◎	○	◎	○
	技能	○	○	◎	○	◎	◎
	知識・理解	◎	○	◎	◎	◎	◎
課題対応能力	関心・意欲・態度	○	○	◎	◎	○	○
	思考・判断・表現	○	△	○	○	○	○
	技能	○	△	△	○	○	○
	知識・理解	◎	△	○	○	○	△
キャリアプランニング能力	関心・意欲・態度	◎	○	○	◎	○	○
	思考・判断・表現	◎	△	△	○	△	△
	技能	◎	△	△	○	△	△
	知識・理解	◎	△	◎	◎	◎	◎

◎達成した　○達成しつつある　△支援が必要

3　教員の評価から

評価の４観点と基礎的・汎用的能力の４能力を組み合わせた観点別評価規準（表１）にもとづいて３段階で評価を行った（表３）。また，全体的な傾向を見るため，評価を点数化（◎：３点，○２点，△：１点）してグラフで表した（図４，５）。

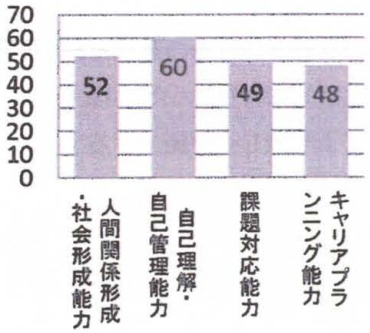

図４　４つの能力の合計点数（72 点満点）

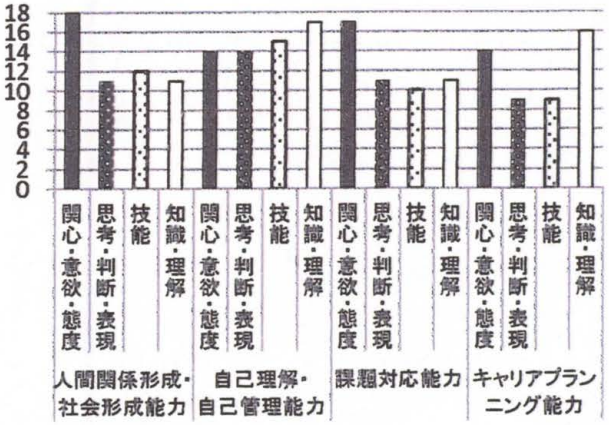

図５　４つの能力の観点別点数（18 点満点）

Ⅴ．考察

授業の結果をもとに，基礎的・汎用的能力の面から食品加工の授業を考察する。

まず「人間関係形成・社会形成能力」については，集団活動への「関心・意欲・態度」の高まりが見られた。就労の継続において重要とされる力であるので，「関心・意欲・態度」の高まりを活かし，「思考・判断・表現」，「技能」，「知識・理解」の面の力を今後さらに伸ばしていく必要がある。今後，他者との関わりの場面を増やす等，集団活動の工夫をしていきたい。

「自己理解・自己管理能力」については「達成した」と評価できる項目が多く，効果が認められる。毎回の評価表（図２）に「仲間の良かったところ・直してほしいところ」を記入し意見交流することで，自分自身

の行動を見直し改善することにつながったと考える。授業において，他の生徒の良いところを見つけてほめ，真似をしようとする様子も多く見られた。特に，片付け等の仕事を率先して行う生徒Cの姿は，他の生徒の主体的行動を喚起させ，集団を高める効果があった。また，生徒Fの事例からは，授業を楽しみにするという気持が「自己理解・自己管理能力」を高めることにつながることが窺える。

「課題対応能力」については，「関心・意欲・態度」の高まりが見られた。「思考・判断・表現」，「技能」「知識・理解」の面についても，学習の繰り返しによって力をつけていく必要があると考える。

「キャリアプランニング能力」については生徒によって評価のばらつきが見られた。生徒実態が幅広いため，支援の工夫についてさらに検討していくこと，加えて，生徒が判断する機会や振り返りの機会を多く設定し，そこから生徒自身が学べるような活動の工夫や意図的な働きかけが必要であると考えられる。

Ⅵ. まとめ

今回の授業実践を通して，集団が個を高め，個が集団を高めるといった生徒の姿から，自己肯定感の高まりをうかがうことができた。基礎的・汎用的能力から授業実践を考察したが，他の単元との関連や生徒の発達段階，後期中等教育段階へのスムーズな移行等を考慮しながら，指導の重点をどこに置くかを明確にすることで，より効果的な指導が可能になり，生徒にも何のための学習かがわかりやすくなると考えられるので，今後の検討課題としたい。

2014年1月，日本でもようやく障害者権利条約が批准され，それに先立ち2013年には改正障害者雇用促進法と障害者差別解消法が成立し，障害者の一般民間企業における法定雇用率も1.8%から2.0%に引き上げられた。法整備が進む中，今後障害者の雇用が促進され，ノーマライゼーション社会に近づくことを期待する。このような時代の流れに応じて学校教育の役割もさらに増し，質的向上が求められると考えられる。今後の社会情勢を見据えながら，個々の生徒の将来の夢や希望に基づいたキャリア発達を把握し支えることのできるような教科「キャリアマネジメント」を展開できるよう，さらに研究を進めていきたい。

本研究は平成26年度科学研究費助成事業(奨励研究課題番号26911008）の助成を受けたものである。

引用・参考文献

中央教育審議会：今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申），2011

愛媛大学教育学部附属特別支援学校：将来の「働く生活」を実現する教育ーキャリア教育に基づく支援内容・方法の検討ー，明治図書，2011.

岩手県総合教育センター：キャリア教育推進ガイドブック　理解編，2008.

J．M．ケラー著・鈴木克明監訳：学習意欲をデザインするーARCSモデルによるインストラクショナルデザインー，北大路書房，2010.

菊地一文：特別支援教育充実のためのキャリア教育ケースブックー事例から学ぶキャリア教育の考え方ー，ジアース教育新社，2013.

国立特別支援教育総合研究所　報告書：知的障害教育におけるキャリア教育の在り方に関する研究ー「キャリア発達段階・内容表（試案）」に基づく実践モデルの構築を目指してー，2010.

国立特別支援教育総合研究所：特別支援教育充実のためのキャリア教育ガイドブック，ジアース教育新社，2011.

文部科学省：特別支援学校学習指導要領，教育出版，2008.

日本職業リハビリテーション学会：職業リハビリテーションの基礎と実践ー障害のある人の就労支援のためにー，中央法規出版，2012.

尾崎祐三・菊地一文：知的障害特別支援学校のキャリア教育の手引き実践編ー小中高の系統性のある実践ー，ジアース教育新社，2013.

東京都キャリア教育推進委員会　報告書:平成20年度障害のある児童・生徒の自立と社会参加を目指した指導の研究・開発事業，2008.

上岡一世：勤労観・職業観がアップする！キャリア教育を取り入れた特別支援教育の授業作り，明治図書，2013.

湯浅恭正他：特別支援教育キャリアアップシリーズ③特別支援教育のカリキュラム開発力を養おう，黎明書房，2008.

Curriculum Development for Promoting Students' Life Management Skills related to their Independence at Social and Vocational Aspects in Special Support Classes of Lower Secondary School

—Practice study of " the food processing" in the carrier management—

Tomoko FUJII and Akihiko WAKAMATSU

Abstract. I reconsidered the work learning to bring up life management skills aimed at the social and vocational independence of the students with the mental disabilities in special support class and newly conducted with educational practice based on the subject "carrier management". In this study, we took up the practice of "food processing" and analyzed the students' behavior and description by adapting an evaluation standard, which involved the point of view of the evaluation and basic, transferable skills. As the result, we confirmed that the students enhanced a feeling of self-affirmation through their behavior and description. On the other hand,we thought that considering the students' stage of development and the linkage between other subjects, the important points of the instruction should be made clear.

Key words: Special support classes in lower secondary school, Career education, Food processing